

行便全体で77・9%(同75・9%)まで上昇し、唐車費の単価アップによる増加分を吸収した。
田口社長は輸送距離600km[※]ゾーンのダイヤグラム化(定時出発)を進めているとして、

午後9時までの路線出発率が上期に57・4%(前年同期は43・2%)まで高まるなど出発時間の早期化が進んでいると説明。「路線便の定時出発が安定した荷物到着につながる。こうした良循環を通じたCS向上が、適正運賃収受に

6割の学生が「絶対にドライバーになるのが嫌」と回答

身内に就職を薦めたくない現役ドライバーも7割

物流関連ゼミ発表会

NS物流研究会(樋口恵一会長)は19日、2016年物流関連ゼミ学生による研究発表会を東京海洋大学越中島キャンパスで開催し、過去最多の10校のゼミが参加した。このうち大阪産業大学の浜崎ゼミは「トラックドライバー不足を解消するための就業実態調査」の結果を発表。学生アンケートの結果、条件を問わず「絶対にドライバーになるのは嫌」と答えた学生は全体の6割、現役ドライバーへのアンケートでは身内にドライバー職を薦めたいかという問いに7割が「いいえ」と回答していることが分かり、労働環境の改善と業界のイメージアップが不可避とした。

このほかのゼミの発表でもトラックドライバー不足に関する研究テーマが多く、長距離運転に自動運転を導入したことによる改善効果を示した研究や、再配達をなくすために、追加料金の徴収を提案する発表もあった。

同大学の学生75人(男性60人、女性15人)に調査を実施したもの。トラックドライバーになりたくない理由としては回答の多い順に「肉体的労働」「労働時間が長い」「休みが少ない」「仕事が面白くなさそう」が挙げられた。

一方、関西圏勤務の18社のトラックドライバー114人(男性111人、女性3人)の就業実態を調査。年齢構成は、全体の約75%が40代以上で約15%が60代以上、20代は8%、30代が19%だった。

また、1日あたり12時間以上働いている人が全体の53・5%あり、休日が月5回以下のドライバーが約半数。68%が給与に不満を持っているが、新卒でドライバーになった人は給与の満足度が約80%と高かった。

ドライバーの仕事については「続

発表テーマ

大阪産業大学 (浜崎ゼミ)	トラックドライバー不足を解消するための就業実態調査について
同志社大学 (石田ゼミ)	災害に立ち向かえー非常における物流とはー
流通経済大学 (小野ゼミ)	トラック運転者の長時間労働問題と運転者不足の改善に向けて
城西大学 (上村ゼミ)	江戸～川越間の物流史ー現代の舟運の活用法ー
亜細亜大学 (白ゼミ)	新しい現実と新しい流通
神奈川大学 (齊藤ゼミ)	トラック運送業者と荷主企業の関係改善の取り組み調査～ドライバーの長時間労働を防ぐために～
目白大学 (加藤ゼミ)	フリーマーケットアプリ(メルカリ)についての研究
流通科学大学 (森ゼミ)	アジアのコールドチェーン構築における日本の物流企業の役割
東京海洋大学 (黒川ゼミ)	「意識改革で再配達ゼロ!～より多くの人にモノを滞りなく届けられる社会へ～」
東京都市大学 (郭ゼミ)	シミュレーションソフトを用いた身近な物流の改善